

小・中学校

平成 15 年 度

教育研究員研究報告書

教 育 課 題

東京都教職員研修センター

目 次

研究主題	
1 主題設定の理由	2
2 研究の仮説	2
3 研究の構想	3
学習活動の展開モデル	
1 発達段階に応じた「目指す児童・生徒像」	4
2 各発達段階における生き方教育の目標	6
3 各教科等の連携事例	8
検証授業	
1 小学校第5学年 特別活動	
(1) 単元名	13
(2) 単元について	13
(3) 学習内容・評価規準・関連的な指導における教科等	13
(4) 本時の学習	14
(5) 使用教材「上級生の感想作文」	16
(6) 評価	16
(7) 成果と課題	17
2 中学校第2学年 総合的な学習の時間	
(1) 単元名	18
(2) 単元について	18
(3) 学習内容・評価規準・関連的な指導における教科等	18
(4) 本時の学習	19
(5) 使用教材	22
(6) 評価	23
(7) 成果と課題	23
研究の成果と今後の課題	
1 研究の成果	24
2 今後の課題	24

1 主題設定の理由

今日、日本の社会は、様々な変化に直面している。高度情報化社会の到来によりグローバル化が進み、その一方で、一国の政治の在り方では解決できない環境問題をはじめとする地球規模の課題が生じている。また、日本の国内では少子高齢化や核家族化などにより、これまでの価値観やライフスタイルが急速に多様化している。こうした児童・生徒を取り巻く環境の様々な変化により、児童・生徒は何を指針に生きていったらよいか迷うことも多い。

その児童・生徒自身についても、社会性の不足や規範意識の薄れが指摘されており、子どもたちに豊かな人間性・社会性を育成し、生きる力を培うことが切実に求められている。

このような社会的背景から、未来に生きる児童・生徒に、「何を目的に何を学ぶか」「どのような資質・能力を身に付けた大人になり、これからの社会においてどのような人生を送るか」について、学校教育において主体的・系統的に考えさせることは、重要な課題である。

すなわち、これからの学校では自己の生き方を考える学習活動を、意図的・計画的に展開することが大切である。

そこで、本研究では、「自らの生き方を考える児童・生徒の育成」を研究主題に設定し、小・中学校の各発達段階における生き方教育の指導方法について研究を行うことにした。

2 研究の仮説

研究主題を踏まえ、本研究では以下のように仮説を立てた。

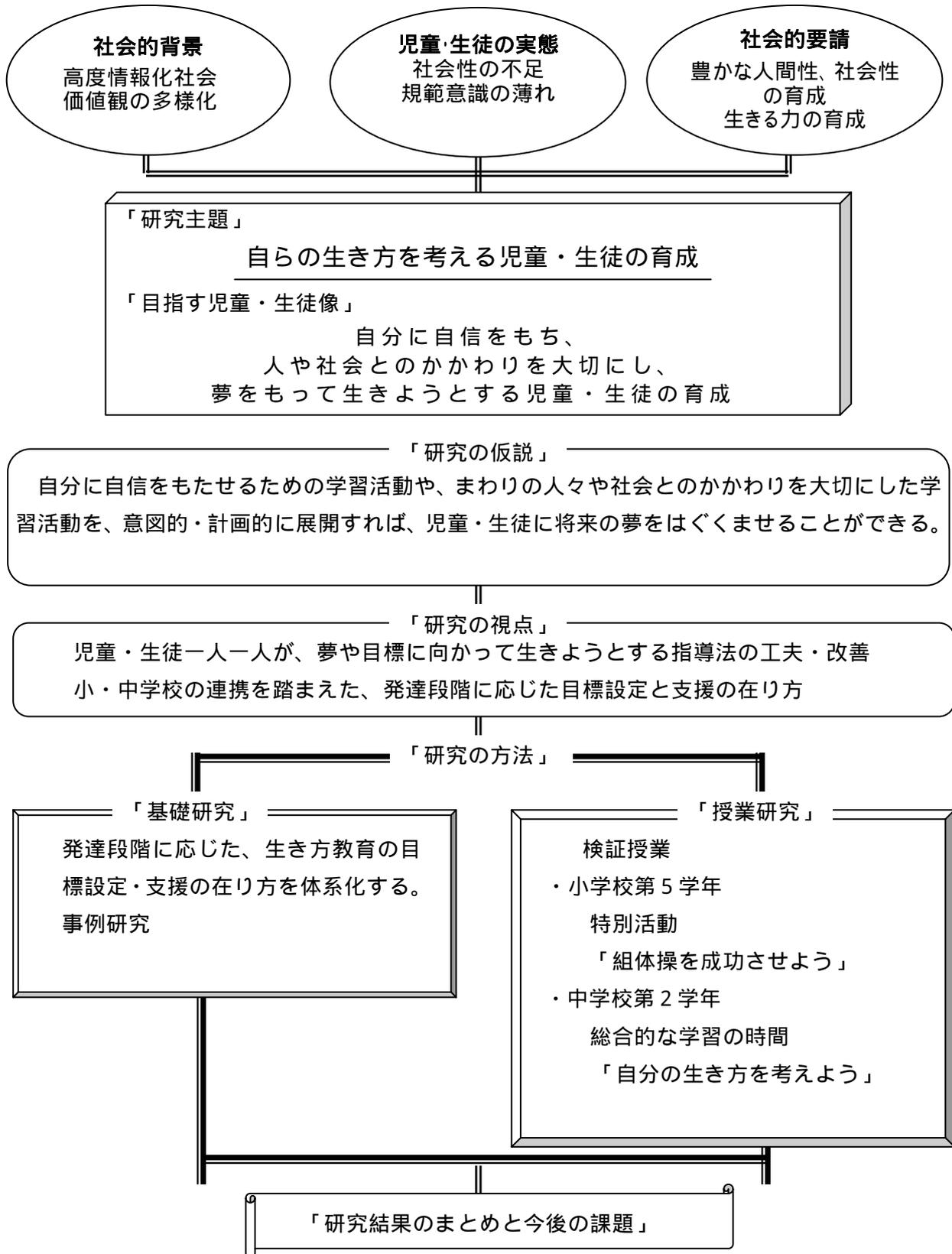
自分に自信をもたせるための学習活動や、まわりの人々や社会とのかかわりを大切にしたい学習活動を、意図的・計画的に展開すれば、児童・生徒に将来への夢をはぐくませることができる。

自分に自信をもつことは、自分を知り、自分のよさに気付くことから始まる。児童・生徒は、自分の果たす役割や能力が、周囲の人たち（家族、学校、地域）に認められれば、より大きな自信をもつ。さらに、人や社会とのかかわりを大切に、様々な体験活動を行う中で、社会のしくみや生き方を広く知ることができる。それとともに、課題を解決したり困難を克服したりする中で、自分のことを自分で決める力が培われ、また、その繰り返しの中で、新たな自信をもつこともできる。

したがって、児童・生徒は「自分を見つめる時間（自己理解）」をもつことによって自分のよさに気付き、自信をもつことのできるような学習活動や、「人や社会とのかかわり」を大切にしたい様々な体験活動を通して、自分自身の生き方を考え、自分の特性を生かした将来への夢をもって生きようとすることができる。

その際に、教師は各教科等での連携をもって指導を行うとともに、小・中学校の発達段階に応じた計画的な指導により、大きな効果を期待できると考える。自ら学ぶ力と将来への夢をもって主体的に生きていく児童・生徒を育てることは、現在の教育課題の一つである。

3 研究の構想



学習活動の展開モデル

基礎研究として、発達段階に応じた目指す児童・生徒像について、小・中学校の連携を踏まえ明らかにするとともに、発達段階ごとの学習活動と教師の支援の在り方を体系化する必要があると考えた。さらに、各教科等の連携による学習活動の事例(p.8 参照)を作成した。

1 発達段階に応じた「目指す児童・生徒像」

研究主題を受け、「目指す児童・生徒像」を次の3つに分けてとらえた。

- | |
|---------------------------|
| A : 自分に自信をもつ児童・生徒 |
| B : 人や社会とのかかわりを大切にする児童・生徒 |
| C : 夢をもって生きようとする児童・生徒 |

さらに、「目指す児童・生徒像」について、本研究部会では次のように分析した。

A : 自分に自信をもつ児童・生徒

小学生、中学生には、年齢に応じた自信があると考えた。家庭では年齢に応じて、また、学校では学年に応じて様々な内容が課題として要求され、年齢、学年が上がるにつれ、より高度なものを求められるようになる。この中で、ものごとをやり抜くことにより得られる「克服・達成」が重要なキーワードとなる。与えられた課題や、自分で発見した課題をやり抜くことが自信や意欲につながり、幼い頃は漠然とした考えや行動が、成長とともに、徐々に絞り込まれていく。すなわち、児童・生徒は、自分が得た自信や意欲をフィードバックしながら課題を克服、達成し、さらに考えや行動を焦点化していくと考えられる。課題の克服、達成において自己理解を深め、自分に対する自信を得ることができると考えた。

B : 人や社会とのかかわりを大切にする児童・生徒

児童・生徒にとっての人間関係は、最も身近な家庭から始まり、小学校入学により学級、教師、友達へと広がり、学年が上がるとともに、学年、他学年、学校、地域、社会等と、かかわる範囲が広く、深くなっていく。人や社会とのかかわりは、児童・生徒が周囲との関係の中でつくっていくものと思われる。さらに、社会における自分の役割を果たしていくことで、互いに認め合い、体験学習や勤労・奉仕活動等を行いながら、自分と周囲の人や社会とのかかわりに気付くとともに、そのかかわりを大切にしていける心がはぐくまれていくと考えた。

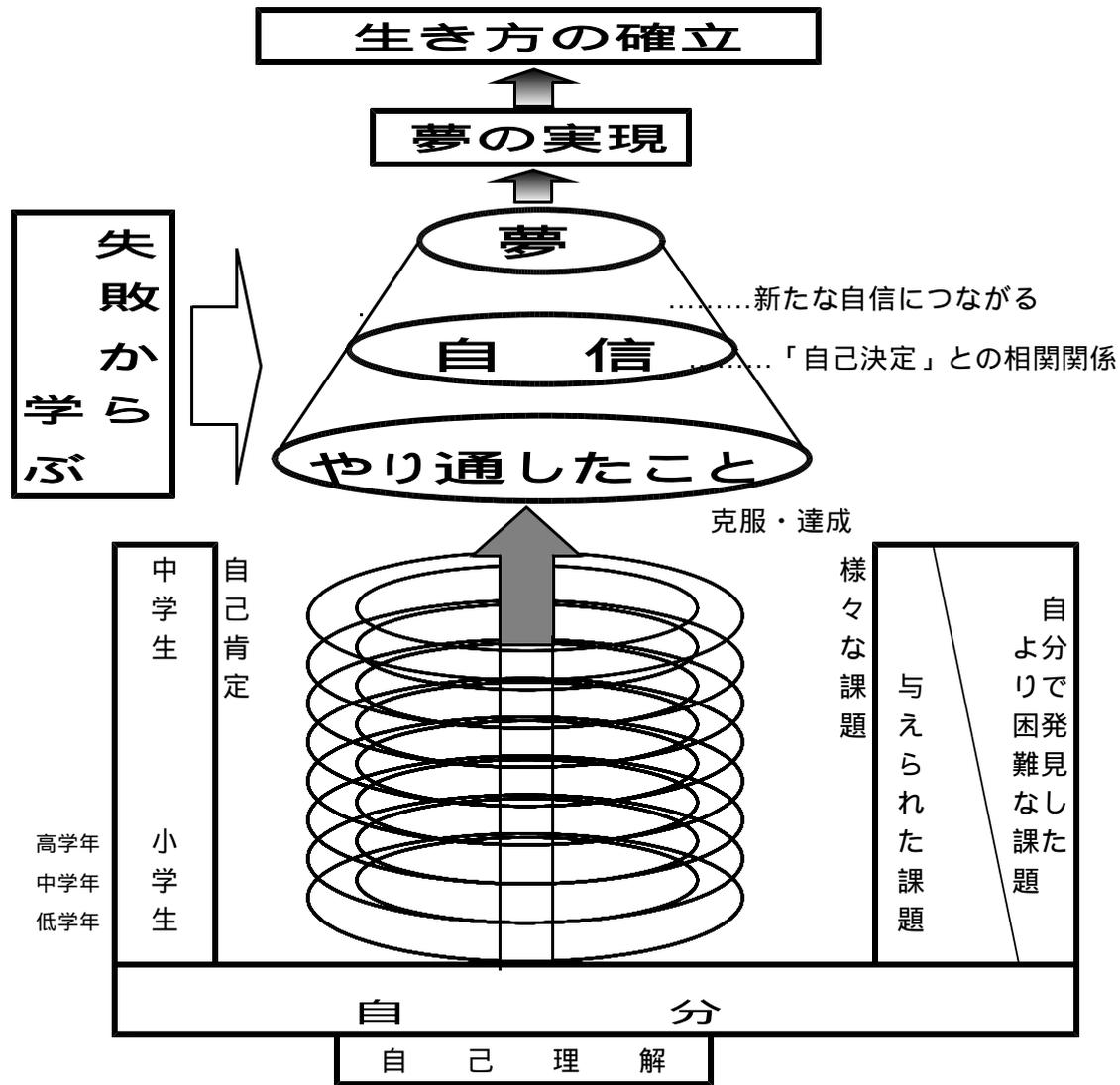
C : 夢をもって生きようとする児童・生徒

将来の生き方についての目標をもつことで、自分が何をすべきかを見だし、人や社会とかかわることで、自己実現の経験を重ねていく。

漠然としながらも夢やあこがれをもち、身近なめあてを考えたり、具体的目標をもったりしながら、自己実現に向かう努力や挑戦をしていくことが、自らの生き方を確立し、将来の夢に向かって生きていくことにつながると考えた。

(図1・2) 発達段階に応じた「目指す児童・生徒像」の概念図

図1 AとCの関係における「生き方の確立」 (A : 自分に自信をもつ児童・生徒)
 (C : 夢をもって生きようとする児童・生徒)



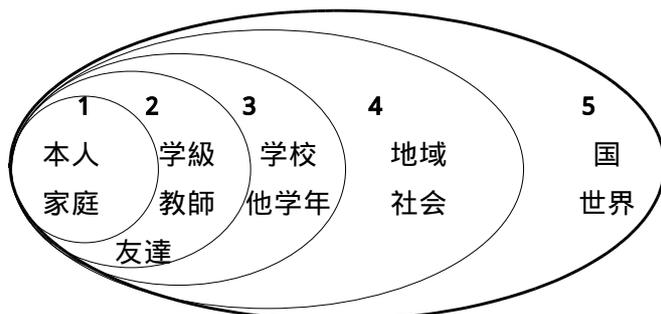
* : 自分で発見した、より困難な課題 (主として中学生)

: 与えられた課題 (主として小学生)

* 取り組むべき様々な課題: 小学校低学年においては与えられた課題が多いが、学年が上がるにつれて、自分で発見したより困難な課題の割合が多くなっていく。

図2 Bにおける、かかわりのある範囲の変化

B : 人や社会とのかかわりを大切にする児童・生徒



小学校低学年から高学年、中学校へと学年が上がるにつれ、かかわりのある範囲が増える。

小学校低学年 : 1 2

" 中学年 : 1 2 3

" 高学年 : 1 2 3 4

中学校 : 1 2 3 4 5

2 各発達段階における生き方教育の目標

目指す児童・生徒像を受け、そのために育てたい力を、自己肯定観や自己理解・人間関係、勤労観・職業観、自己決定や自己実現の観点からとらえることにした。それぞれの観点について、発達段階に応じた目標を設定し、体系化を図った。

目指す児童・生徒像	育てたい力		小学校低学年
A 自分に自信をもつ児童・生徒	自己肯定感	自己理解 あるがままの自分を知る	・自分を知る。 ・自分のよさに気付く。 道徳、特別活動（実践事例）
B 人や社会とのかかわりを大切にする児童・生徒	肯定的自己像の形成	人間関係 よい人間関係をつくる	・友だちと仲よくする。 道徳、体育、特別活動
	勤労観・職業観 働くことの意義を知る		・働くことの大切さに気付く。 （実践事例） 生活、道徳、特別活動
C 夢をもって生きようとする児童・生徒	自己決定 自己決定能力の育成		・アドバイスを受けながら、自分のことは自分で決める。 国語、図画工作、特別活動
	自己実現 生きがいの追求		・めあてをもってがんばる。 （実践事例） 道徳、体育、特別活動

教師の支援

意図的計画的な学習活動の展開にあたって、教師の支援の在り方を以下のように考えた。

A 自分に自信をもつ児童・生徒

- ・他人との違いや自分のよさに気付くことは、成長の一步であることを知らせ、自分のよさを発揮したり表現したりすることができるようにする。
- ・一人一人の感じ方や考え方を大切に、肯定的に評価するなど、児童・生徒が自分のよさや特性に自ら気付くことができるようにする。
- ・学級の活動や学校行事などで、児童・生徒が進んで自分のよさを発揮できるような場や機会を多く設定する。

B 人や社会とのかかわりを大切にする児童・生徒

- ・体験的な学習を通して得た知識や情報は、その後の学習に生きて働く大きな力となる。日常生活の中で、人と人とのかかわり合いを深める体験的活動を多く取り入れ、児童・生徒が学校や地域社会で多くの人と積極的にかかわることができるようにする。

は、目標を達成するために適した教科等

小学校中学年	小学校高学年	中学校
<ul style="list-style-type: none"> ・人との違いから自分のよさに気付く。(実践事例) 総合的な学習の時間、図画工作、道徳、特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的に自分のよさを知る。(実践事例) 国語、特別活動、道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深め、個性を伸ばす。 特別活動、理科、道徳
<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと協力する。(実践事例) 体育、道徳、特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・まわりの人とのかわりを大切にする。 ・友だちと認め合う。 体育、道徳、特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・好ましい人間関係をつくる。 ・集団の中で個性を発揮する。 体育、特別活動、道徳
<ul style="list-style-type: none"> ・働く意味を知る。 社会、総合的な学習の時間、特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・勤労の意義を理解する。(実践事例) 家庭、道徳、総合的な学習の時間、特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・職業への関心を高め、社会的意義を理解する。(検証授業 2) 総合的な学習の時間、特別活動
<ul style="list-style-type: none"> ・選択肢を参考にしながら、自分のことは自分で決める。 総合的な学習の時間、特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことは自分で決める。 総合的な学習の時間、特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の行動を主体的に決定する。 総合的な学習の時間、特別活動
<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりのめあてをもち、めあてに向かって努力する。(実践事例) 図画工作、体育、特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢に向かって努力する。(検証授業 1) 特別活動、体育、国語	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献のために自分に何ができるかを考える。(実践事例) 国語、道徳、特別活動

- ・身近な大人の仕事についての関心をもたせ、そのすばらしさや苦勞などについて話し合わせる。
- ・下級生の世話をしたり、地域の美化活動に積極的に参加したりして、人の役に立つ体験をすることにより、勤勞や奉仕の態度が育つようにする。

C 夢をもって生きようとする児童・生徒

- ・児童・生徒が夢中になって取り組む中で、努力したことや工夫したことを認め、励ます。
- ・児童・生徒一人一人が、様々な課題の中から自分自身で決定したり、考えたりして自分なりのめあてをもとうとしていることを認め、励ます。
- ・つまずきや失敗も経験のひとつとして受け止め、適宜、励ましたり、助言したりして最後までやり遂げようとする態度が身に付くようにする。

3 各教科等の連携事例

目標を達成するには、各学年での発達段階に応じた指導が必要であるが、一つの教科に限らず、各教科等での連携した学習活動により、一層の教育効果があると考え、以下に実践事例を示した。

A 自分に自信をもつ児童・生徒

<p>実践事例 小学校 第2学年</p> <p>目標：自分のよさに気付く。</p>	
<p>道徳 「助け合う友だち」(信頼・友情)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 助けてもらった経験を発表する。 ・ 資料を読んで話し合う。 <p>(自分のことだけを考えていた自分・みんなのことが少し気にかかるようになった自分・みんなの気持ちが分かった自分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 擬人化された動物の心情の変化に共感させながら、相手を思い助け合うことの大切さに気付かせる。 ・ 助けてあげた経験を発表する。 	<p>特別活動(学級活動) 「いいところさがし」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳の「助け合う友だち」を思い起こす。 ・ 自分のよいところを自分で見つける。 ・ いろいろな友達から、自分のよいところを教えてもらう。 ・ 自分では知らなかった自分のよさを発見したり、友達から認めてもらう喜びや満足感を味わったりする。 ・ カードに記入し掲示することにより、互いのよさを理解し合い、よりよい人間関係を作り、それぞれの自己肯定感を高める。
<p><評価の観点></p> <p>自分のよさにたくさん気付き、自分を好きになり、自分を大事にしようとする。</p> <p>互いのよさを認め合い、相手の気持ちを考え、仲良く助け合おうとする。</p>	

<p>実践事例 小学校 第3学年</p> <p>目標：人との違いから自分のよさに気付く。</p>	
<p>総合的な学習の時間 「校内めぐりをして気付いた模様を写し取ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ活動をして校内のどの場所で重点的に活動するか話し合う。 ・ それぞれの場所に行き、写し取る。 ・ なぜそのような模様になったのかを考えてみる。(デザイン性や機能性が強いものなど) ・ グループ内で意味のあるデザインなど、気付いたことを発表する。 	<p>図画工作 「フロッタージュから生まれたもの」(表現・デザイン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループでまわった経験から自分でおもしろいと感じた模様をできるだけフロッタージュする。(クレヨン等) ・ 集めた形をさらにコラージュして作品にする。 ・ 鑑賞し合う。(工夫した所、お気に入りなど)
<p><評価の観点></p> <p>グループから出された多様な模様の形や意味を知ることにより、自分の作品に生かしていく。友達の作品を鑑賞し、そのよさを見つけるとともに、友達の作品と違うところや自分の作品のよさに気付く。</p>	

<p>実践事例 小学校 第6学年</p> <p>目標：客観的に自分のよさを知る。</p>	
<p>国語「卒業文集づくり」</p> <p>(卒業を控えて小学校での成長を振り返り、卒業文集を書く。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の小学校生活を振り返るための計画を立てる。 ・必要な資料を集めたり、取材したりする。 ・自分なりの表現方法で卒業文集にまとめる。 ・自分を支えてくれた人々(家族等)に感謝の気持ちを込めて手紙を書く。(感謝の集いで自分を支えてくれた人に渡す。) 	<p>特別活動「職業・仕事調べ」</p> <p>(自分の将来や就きたい職業や仕事について調べる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来自分のなりたい職業、仕事などについて考え、話し合う。 ・職業、仕事ごとに調べる内容や調べ方について考える。 ・資料(本、インターネット、取材、見学等)をもとに調べまとめる。 ・「職業、仕事調べ」発表会を行う。
<p><評価の観点></p> <p>過去から現在、現在から未来へ2つの方法で自分のよさを見つめる。</p> <p>自分の夢に向かって、最後まであきらめずに取り組み、未来への希望をもつ。</p>	

B 人や社会とのかかわりを大切にする児童・生徒

<p>実践事例 小学校 第3学年</p> <p>目標：友達と協力する。</p>	
<p>体育「ボールゲーム」(サッカー型、バスケットボール型等)</p> <p style="text-align: center;">〔指導の流れ〕</p> <p>【簡単なゲーム】 ・ルールを守り勝敗を素直に認めるように働きかける。 (試しのゲーム) ・児童の技能・特徴を的確に把握する。</p> <p>【工夫したゲーム】 ・友達のよいプレー、よい動きを見つけた児童をほめる。 (リーグ戦) ・自分たちのよいところをさらに伸ばしていくように励ます。 (対抗戦) ・対戦相手のよい動きも認め合うように働きかける。</p> <p>〔指導の工夫〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のよさを紹介する場面を学習過程の中に位置づける。 ・学習カードに自分のよさに関する記述欄を設定する。 	
<p><評価の観点></p> <p>自分や友達のよさに気づき、周囲とのかかわりを大切にしようとする。</p> <p>作戦を考えたり、チームの中での役割を考えたりしてゲームを楽しむ。</p>	

<p>実践事例 小学校 第1学年</p> <p>目標：働くことの大切さに気付く。</p>	
<p>生活科 「お手伝いをしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭で行うお手伝いを決め、各家庭で実践してみる。 ・お手伝いをしたことを発表し合い、自分の活動を振り返ったり、友達の活動を知る。 ・保護者よりお手伝いについての手紙をもらい、自分の存在感を確かめる。 ・新たな役割を見つけ、継続して活動できるようにする。 	<p>道徳 「げんかんそうじ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活科で学習したお手伝いの学習を思い出す。 ・資料「げんかんのそうじ」を読む。 ・登場人物の発言・やりとりから、心情の変化を読み取る。 ・自分の経験と重ね合わせて考え、自らの考えを深める。 ・学習したことをこれからの生活に生かそうとする。
<p><評価の観点></p> <p>自分の役割をしっかりと最後までやり遂げることができる。</p> <p>家族の一員としての自分の存在に気付く。</p>	

<p>実践事例 小学校 第6学年</p> <p>目標：勤労の意義を理解する。</p>	
<p>道徳 「マザーテレサ」(勤労 社会奉仕)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアとはどういうことか話し合う。 ・資料を読み、テレサの行動や考えについて話し合う。 ・テレサのメッセージを自分の生活につなげ自分ができることを見つける。 ・具体的に実行できた経験を交流する。 ・単に利益や見返りを期待するのではなく自分で率先して自発的に行動することの尊さ、本当の豊かさについて考える。 	<p>家庭 「地域の人たちとのつながりを大切にしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちとの交流や地域で支え合っている場面を、話し合う。 ・自分たちが地域の人々のためにできることは何かを考える。 ・実践計画を立て、実行する。 ・継続し、さらに活動を深めたり、広げたりする工夫を考える。 ・活動の様子を交流し、誰もが気持ちよく生活できる暮らしについて考える。
<p><評価の観点></p> <p>人間の営みや温かな思いやりの心に対する気付きから、自分を生かし役立てようとする。</p> <p>人のために働く喜びを知る。</p>	

C 夢をもって生きようとする児童・生徒

<p>実践事例 小学校 第2学年</p> <p>目標：めあてをもってがんばる。</p>	
<p>道徳 「さかあがり」(勤勉努力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・努力をしないで途中でやめた経験を発表する。 ・もっとがんばればよかったことはないか。 ・資料を読んで話し合う。練習を始めた理由 できた時の気持ちや様子 励まされた時 ・一つのことを決めて努力しようとするとき、どんなことが大事か。(めあてを決める。あきらめないで最後までやる。) ・感想を発表する。 	<p>特別活動(学級活動) 「一学期のめあてを決めよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の「さかあがり」を思い起こす。 ・自分たちも進んで何かをやろうと意欲をもつ。 ・一学期の学習のめあて、生活のめあてをもつ。(何をどのようにがんばるか、具体的に考える。) ・掲示されたカードより、友達のめあてを知る。(同じめあてをもっている友達や班の人たちのめあてを知る。)
<p><評価の観点></p> <p>めあてをもって、一生懸命努力し、向上しようとする。</p> <p>友達と励まし合ったり、教え合ったりすることにより、最後までやろうとする。</p>	

<p>実践事例 小学校 第4学年</p> <p>目標：自分なりのめあてをもち、めあてに向かって努力する。</p>	
<p>図画工作 「校庭に秘密基地をつくろう」(造形活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで遊んだところで楽しい場所を思い起こしてみる。 ・グループ決めをする。 ・グループで話し合って決める際に、自分の考えを出す。 ・個人の希望が一つは叶うようにみんなで考えをまとめる。 ・校庭の場所決めをして、材料を集める。 ・実際に相談しながらつくっていく。完成したら遊んでみる。(安全面に注意する) 	
<p><評価の観点></p> <p>グループで話し合い、よいところは取り入れながら力を合わせて造形活動をする。</p> <p>自分の考えを出し、作品が完成したときの成就感を味わう。</p>	

実践事例 中学校 第3学年

目標：社会貢献のために自分に何ができるかを考える。

国語 「地雷と聖火」

- ・「地雷と聖火」を通読し、舞台となっているカンボジアの内戦や地雷についてわかることをまとめる。
- ・筆者がカンボジアで触雷し、右手、右足を失った後、なぜフルマラソンに挑戦しようと思ったのかを読み取り、「自己の限界に挑戦すること」を訴えていることを確認する。
- ・長野五輪の開会式における聖火ランナーを務めたときの願いや、全世界の地雷撤去の夢に向かって取り組んでいる筆者の姿に触れ、自己の夢を実現しようという意欲をもつ。

道徳 「ぼくにもこんなよいところがある」

- ・自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。

特別活動（学級活動） 「進路計画を練り直してみよう」

- ・自己の進路計画を再確認し、より具体的なものにする。
- ・自己の進路計画を検討するための観点について理解する。
- ・自己の進路希望を実現しようとする意欲を高める。

< 評価の観点 >

自己を見つめ、個性を伸ばして充実した生き方をしようとする意欲をもつ。

自己の限界に挑戦し、一歩ずつ努力して大きな夢を実現しようという意欲をもつ。

自己の進路計画を練り直し、将来の計画を立てる。

検証授業

「各発達段階における生き方教育の目標」を受け、C(夢をもって生きようとする児童・生徒)について小学校第5学年・特別活動(p.7表中「検証授業1」)にて、また、B(人や社会とのかかわりを大切にする児童・生徒)について中学校第2学年・総合的な学習の時間(p.7表中「検証授業2」)にて検証授業を行った。

1 小学校第5学年 特別活動

(1) 単元名 「組体操を成功させよう」

(2) 単元について

本単元では、目指す児童・生徒像におけるC(夢をもって生きようとする児童・生徒)について、目標に向かって努力する「生き方」の学習としての特別活動(学級活動)を、体育の組体操、また国語の表現活動と関連付けながら学習を進めることとした。

体育科では、運動会で組体操の演技を成功させるための活動を行ってきた。児童にとって、目標をもって取り組む活動は日常的に行われているが、どちらかと言えば達成までの段階を今までの体験等から考えることができる目標の設定が多い。その中であって、組体操を成功させるという目標は児童にとって未知のものであり、達成できるかの不安も大きい。それだけに、目標を達成した時の喜びは大変大きく、そこで得ることができる自信も大きいと考えた。

そこで、本時では、自分たちが立てた目標を、現6年生が組体操に取り組んだ時の様子のVTRを見たり、作文を読んだりすることで、明確化し、さらに共有化することをねらいとした。

その具体的な方法の一つとしての、「掛け声」について話し合い活動を行い、意欲の向上を一層図ることとした。

(3) 学習内容・評価規準・関連的な指導における教科等

	学習内容	評価規準 (A・B・C)...「目指す児童・生徒像」	関連的な指導 における教科等
1	「一人技・二人技を身に付けよう」 「三人技に挑戦しよう」 「五人技に挑戦しよう」	・友達と力を合わせて協力し、励まし合って運動する。(B) ・めあてに向けて努力し、最後まで運動する。(C)	体育
2	「組体操を成功させよう」	・ピラミッドタワー完成への希望をもって話し合いに参加する。(B) ・組体操の練習や運動会当日の発表への意欲をもつ。(C)	特別活動 (学級活動) (本時)
3	「流れるような動きを表現しよう」	・友達と協力し、励まし合って運動する。(B) ・めあてに向けて努力し、最後まで運動する。(C)	体育
4	「ピラミッド・タワーに挑戦しよう」 「組体操を作り上げよう」	・曲に合わせて、心を一つに表現する。(A) ・組体操成功に向けて努力し、最後まで運動する。(A) ・友達と協力し、励まし合って運動する。(B) ・自分の立てた目標に向かって努力することを通して、組体操に意欲的に取り組む。(C)	特別活動 (学校行事)
5	「今までの練習の成果を発揮しよう」	・曲に合わせて、心を一つに一杯表現する。(A) ・友達と協力し、励まし合って表現する。(B)	特別活動 (学校行事) 運動会

6	「これまでの学習を振り返ろう」	<ul style="list-style-type: none"> ・組体操の取り組みを通して、達成感を味わい、自信につなげる。(A) ・組体操の取り組みを通して、自分や友達のよさを認め合う。(B) ・取り組みを通して達成感を味わい、夢や希望を抱く姿勢につなげる。(C) 	特別活動 (学級活動)
7	「運動会の感動を表そう」	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長を確認する。(A) ・目標に向かって努力した活動のよさを感じ、今後の活動につなげる意欲をもつ。(C) 	国語

(4) 本時の学習

ねらい

組体操への取り組みにおける目標や掛け声について話し合い、運動会における組体操への取り組みの意欲を高める。

授業の展開

	学習活動	指導・支援	評価規準
導入	<p>1 今日の学習活動の説明を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組体操の最後に行くピラミッドタワーを作る際の掛け声の言葉や役割を決める。 ・組体操の目標を決める。 		
	<p>2 一昨年に行った組体操と6年生からのメッセージのVTRを見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標となる演技を見ることにより、達成への見通しをもつ。 ・これからの練習への意欲をもつ。  <p>VTR視聴の様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・練習中のエピソードも取り上げ、困難を乗り越える過程や、達成したときの感動を知らせる。 ・目標をより身近なものとするために、VTRを見る際の観点(カウントのとり方・技の決め方・迷いのない動きなど)を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組体操の練習や運動会当日への発表への意欲をもつ。(C)
展開	<p>3 最後のピラミッドタワーを作るときの掛け声や役割を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数人の児童による模範演技を見る。 		

- ・掛け声について話し合う。



班での話し合いの様子



掛け声の練習の様子

- ・掛け声役を決め、掛け声をかける練習をする。

- ・掛け声の大切さを理解させるとともに、学級全員の気持ちをひとつにする言葉がよいことを知らせる。
- ・班ごとに話し合いを行い、全員が意見を出せるようにする。



各班が考えた掛け声の発表の様子

- ・仮の決定であることを伝えた上で、立候補した児童全員に掛け声を体験させる。
- ・実際に掛け声を行うことで、話し合いの成果を実感できるようにする。

- ・ピラミッドタワー完成への希望をもって話し合いに参加する。(B)

終末

4 上級生の感想作文を聞く。

- ・上級生の体験後の感想作文(資料1)を聞き、これからの自分たちの取り組みについて考える。



感想作文を聞いている様子

- ・感想作文を聞くことを通して、自分たちの望ましい運動会当日の姿を思い描き、目標をより具体的にもてるようにする。

5 組体操の目標を立て、発表する。

- ・今日の学習を通して学んだことをもとに、運動会当日での目標を立て、感想とともに発表する。

- ・運動会当日までワークシートを掲示し、目標達成への意欲を保てるようにする。

- ・組体操の練習や運動会当日の発表への意欲をもつ。(C)

(5) 使用教材 「上級生の感想作文」(資料1)

小学校生活最後の運動会が終わった。中でも一番心に残ったのは、組体操だった。

練習のときは、ほとんどの技ができていたけれど、私が一番心配していたのは、小タワーやロディオだ。三人組のAさんが腰を痛めていて、練習できなかったからだ。

組体操の番が来て入場し、横になった。私はすごく緊張していた。

一つ一つ技を成功させていき、とうとう三人組になった。私が心配していたロディオの番になり、上によじ登った。その時、足がすべって、落ちてしまった。だけれど少し時間があったので作り直すことができた。すごくうれしかった。次は小タワーだ。小タワーは何とか上手にできた。そして、五人技の場所に移動した。

五人技は、練習の時に「決め」の時間が合わなかったりくずれたりして大変だった。でも練習していくうちにだんだん上達していき、本番でも完ぺきに決めることができた。

十人技のピラミッドは、八の拍数で上に上がらなくてはならない。上に登るのはBさんだ。私は上から二段目だった。練習のときは落ちたり、崩れたりしていろいろ大変だった。5年生は、初めての組体操だったけれど、無事にピラミッドが立った。全部立ったと聞いたときは、すごく感動した。

一番最後のタワーは、練習では全部そろって立ったことが一度もなかった。それが本番は、全部のタワーがそろって立つことができた。私は一番下で両手を挙げられるほど軽かった。だけれど、一番上の人はずごく怖かっただろう。とても勇気があるなと思った。

骨折して組体操に出られなかったCさんも、アナウンスをしながら応援してくれていた。その男子は、とても悔しかっただろう。

最後のタワーも成功し、退場の曲が流れた。男子がアナウンスをしていたCさんを迎えに行き、持ち上げて走った。そのときCさんはすごくうれしそうな顔をしていた。私はDさんといっしょに、Cさんと退場門をくぐった。

組体操は練習するのは大変だったけれど、終わったあとが感動的なので、何回でもやりたかったと思った。心配していたロディオ・小タワーも完ぺきに倒れずにできたし、タワーも一度もそろってたつことがなかったのに、本番ではきれいに立った。

6年最後の組体操は何もかも完ぺきにできたので、本当によかったなと感じた。

(6) 評価

5年生児童にとって、組体操の演技は挑戦したいと思いつつも難しいものと感じていた。当該学年となり、実際に演技をしてみると、不安が大きくなっている様子であった。

組体操の演技を成功させるには、何よりもチームワークが大切であり、そのことは児童もVTRから感じ取ることができた。教師からの「掛け声を決めよう」という提案に基づき、話し合い活動を行った。目標が明確であったため、話し合い活動も熱気を帯び、クラスの掛け声を決めることができ、さらに、運動会における組体操への取り組みの意欲を高めることができた。

(7) 成果と課題

教材の活用（VTR、感想作文）

本単元では、特別活動・学校行事である運動会及び国語・表現活動と関連付けて、特別活動・学級活動として、運動会での組体操の演技を成功させるための学習を進めてきた。

特に、本時では上級生の組体操の取り組みのVTRを見たり、感想作文を読んだりすることで、組体操への取り組みにおける目標の明確化をねらいとした。その具体的な方法として、上級生の演技における「掛け声」の意義を感じさせ、「掛け声」の具体的な言葉を考える取り組みを通して、意欲の向上を目指した。

学習を終えての児童の感想では、次のようなものがあった。

先輩の感想作文に感動した。あんな作文が書けるくらい一生懸命に組体操を頑張ろうと思う。

VTRを見て、すごくきれいにできていたのすごかった。掛け声は大きな声で言えたいけれども、本番は何倍も大きな声で言おうと思った。

今日の学習で、組体操のことがよく分かった。特に、感想作文に一番感動した。私は組体操が難しいと思っていたけれども、本番にはうまくできると思った。

VTRを見て、先輩たちはすごく工夫をしているのだなと思った。

掛け声は「みんなの心をひとつにしよう」に決まった。先輩たちの組体操は完ぺきになっていたの、私ももっと練習しなければと思った。

VTRや感想作文を見たり、聞いたりして、すごいなと思った。私もあのくらい上手になりたい。

以上の感想から、VTRを見たり、感想作文を聞いたりすることにより、各児童が発表までの取り組みを自覚させることができたと考える。さらに、その第一段階として、掛け声の言葉を決めることは、発表を成功させたいとの意欲の向上について、効果があったものとする。

「目指す児童・生徒像」についての成果

「自分に自信をもつ児童・生徒」(A)について

児童の感想に「私は組体操が難しいと思っていたけれども、本番にはうまくできると思った。」とあるが、難しい技に挑戦し、成功させたいという意欲をもたせることができた。

「人や社会とのかかわりを大切にする児童・生徒」(B)について

VTRや目標となる6年生の感想作文を通して、先人とのつながりを感じるとともに、先人から学ぶ姿勢を身に付けることができた。

「夢をもって生きようとする児童・生徒」(C)について

VTRや感想作文から得た感動が、「完ぺきな組体操ができるように上手になりたい」との児童の感想につながり、組体操を自分たちの力で成功させたいという夢につながった。

課題

組体操を成功させる上でできること、必要なことについての発問により、児童自身が掛け声の意義に気付くようにする必要があった。

児童の言葉として、組体操に対する様々な不安を表現させ、体育、組体操についての不安の程度がそれぞれ異なることを事前に理解させる工夫が必要であった。

自分に自信をもち、さらに活動への意欲をもつきっかけを与え、自分を過小に評価してしまう児童に対して、自信をなくさないよう教師の支援を十分行う必要があった。

2 中学校第2学年 総合的な学習の時間

(1) 単元名 「自分の生き方を考えよう」

(2) 単元について

本単元では、職場体験を通して自己理解を深め、自己の将来の職業や社会生活に対する理想や希望等、自分の生き方について考えることをねらいとしている。

これまでの職場体験においては、紙上発表や体験発表によって、職業理解や自己理解のまとめとすることが多かったと思われる。しかし、生き方を考える指導を行う上では、一步踏み込んだまとめや発表を通して考察する時間が必要であると考えた。

そこで、単元における学習内容と学習の流れを、生徒個々が自分の生き方、すなわち自己の将来の職業や社会生活に対する理想や希望について考えを深められるように指導計画を作成し、その中に、「発表とまとめ」として位置付けた。

(3) 学習内容・評価規準・関連的な指導における教科等

	学習内容	評価規準 (A・B・C)...「目指す児童・生徒像」	関連的な指導 における教科等
1	「身近な生活を見直す」	・自分の興味・関心を客観的にみつめ直し、自己の特性への理解を深める。 (A)	総合的な学習の時間
2	「自分を知ろう」	・自分の興味・関心を客観的にみつめ直し、自己の特性への理解を深める。 (A)	総合的な学習の時間
3	「職場体験ガイダンス」	・職場体験を通して、人や社会とのかかわりに気付き、仕事の社会的な意義を理解する。(B)	特別活動 (学級活動)
4	「『自分の履歴書』作成」	・職場体験を通して、人や社会とのかかわりに気付き、仕事の社会的な意義を理解する。(B)	特別活動 (学級活動)
5	「職場体験の依頼訪問」 「職場体験行動予定表の作成」	・自分の興味・関心を客観的にみつめ直し、自己の特性への理解を深める。 (A) ・職場体験を通して、人や社会とのかかわりに気付き、仕事の社会的な意義を理解する。(B)	特別活動 (学校行事)

6	「職場体験」	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味・関心を客観的にみつめ直し、自己の特性への理解を深める。(A) ・職場体験を通して、人や社会とのかかわりに気づき、仕事の社会的な意義を理解する。(B) ・自己の将来の職業、社会生活に対する理想や希望について考える。(C) 	特別活動 (学校行事)
7	「職場への礼状作成」	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験を通して、人や社会とのかかわりに気づき、仕事の社会的な意義を理解する。(B) 	特別活動 (学級活動)
8	「学習のまとめ(新聞作成)」	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味・関心を客観的にみつめ直し、自己の特性への理解を深める(A) ・職場体験を通して、人や社会とのかかわりに気づき、仕事の社会的な意義を理解する。(B) ・自己の将来の職業、社会生活に対する理想や希望について考える。(C) 	総合的な学習 の時間
9	「発表とまとめ」	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味・関心を客観的にみつめ直し、自己の特性への理解を深める。(A) ・職場体験を通して、人や社会とのかかわりに気づき、仕事の社会的な意義を理解する。(B) ・自己の将来の職業、社会生活に対する理想や希望について考える。(C) 	総合的な学習 の時間 (本時)

(4) 本時の学習

ねらい

体験発表と班での話し合いにより、働くことの意義や目的を考えさせるとともに、日々の生活の大切さを生徒自身に感じさせ、将来のために必要な自己の課題を考えさせる。

授業の展開

	学習活動	指導・支援	評価規準
導入	<p>1 本時の学習活動を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の確認とねらいの確認をする。 ・「記録用紙」を受け取り、内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の流れとねらいを伝える。 ・「職場体験新聞」(資料5)を配布する。 ・「記録用紙」(記入済)(資料2)を配布する。 ・発表の手順と聞き方の説明をする。 	
展開	<p>2 発表に基づき、働くことの意義について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の代表者が発表をする。 ・話を聞いていて、付け加えることがあったら、「記録用紙」に記入する。 ・発表についての質疑応答をする。 ・働く喜び、苦勞、大切にしていること、ほめられて嬉しかったことを答える。 	 <p>班の代表者による発表の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要であれば、喜び、苦勞、大切にしていること、ほめられて嬉しかったことについて発問し、答えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験を通して、人や社会とのかかわりに気付き、仕事の社会的な意義を理解する。(B)
	<p>3 班で話し合ったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働くことの意義について班で話し合い、内容を板書する。 ・班で話し合ったことについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く意義について発問する。 ・ワークシート1(資料3)を配布し、話し合いの手順を説明する。 	



班での話し合いの様子

代表者が発表する。

- ・各班の発表について質疑応答をする。



班の代表者による発表の様子

終末

4 働くことの意義について、自分の考えをまとめる。

- ・働くことの意義と、現在の自分がどのようなことを心がけて生活しようと考えているかについて、各自ワークシート2の1、2に記入する。

- ・危険な職業もあることを紹介する。また、生徒に対して家族がどのような願いをもっているかを取り上げ、考えを深めさせる。

- ・ワークシート2（資料4）を配布する。



ワークシート記入の様子

- ・自分の興味・関心を客観的にみつめ直し、自己の特性への理解を深める。(A)

5 働くことの意義について、自分の考えを発表する。

- ・ワークシート2の1、2に基づき、発表する。
- ・ワークシート2の3を記入する。

- ・働くことの意義についてのまとめとして、ワークシート2の3「学習を終えての感想」を記入する。
- ・働くことの意義と、日々の生活の大切さについて話す。

- ・自己の将来の職業、社会生活に対する理想や希望について考える。(C)

(5) 使用教材 (資料 2・3・4・5)

資料 2 記録用紙 (記入済)

組 番氏名

1 体験した事業	シューズ本店	
	体験前に予想した内容	実際にした内容
2 仕事内容	販売、接客	販売、接客、清掃 商品の補充
3 働くとき気をつけること	特に考えなかった	鏡の前に立たない 右手を前にして立つ
4 働人の喜び・楽しさ	考えなかった	お客さんに履きやすい靴を履いてもらい、喜んでもらうこと
5 働く人のつらさ・苦勞	接客はとても大変そう	ずっと立っている仕事だったので、足が大変疲れた
6 ほめられて嬉しかったこと	いろいろ質問したこと	
7 働くために何が大切で何が必要か	シューズではお客さんに履きやすい靴を履いてもらうために、足について勉強する必要がある	
8 今の自分に必要なこと、心がけようと思うこと	この仕事をして、たった一日でも大変疲れたので、販売の仕事をしている私の親をこれからは手伝いたいと思います	

資料 3 ワークシート 1

班で話し合った内容 () 班

働くとはどういうことか？
<ul style="list-style-type: none"> ・お金をかせぐ ・生きるために必要なこと ・色々なことを学ぶ場 ・家族のため ・働く人の夢の実現のため ・人を助けること ・夢を叶えること ・世の中を変えること ・人の役に立つこと ・生活するためにすること ・世間からの評価の基準となるもの ・老後のため ・心も体も鍛えるため ・生きることの喜びをつかむ ・生きがいをみつけること

資料 4 ワークシート 2

組 番 氏名

1 働くとはどういうことか？	(資料 3 参照)
2 今の自分に必要なこと・心がけようと思うこと	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 33%;">・思いやりの心 <li style="width: 33%;">・あいさつ <li style="width: 33%;">・返事、言葉遣い、笑顔 <li style="width: 33%;">・積極性 <li style="width: 33%;">・気遣い <li style="width: 33%;">・規則正しい生活 <li style="width: 33%;">・がまんをする <li style="width: 33%;">・根性と努力 <li style="width: 33%;">・集中力 <li style="width: 33%;">・何事もあきらめない <li style="width: 33%;">・一生懸命さ <li style="width: 33%;">・やりたいことを見つける <li style="width: 33%;">・何事にも責任をもつ <li style="width: 33%;">・興味をもってチャレンジする
3 学習を終えての感想	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことの意味が少しわかった気がする。これからの自分に必要なものを見つけることができ良かったです。 ・実際に仕事を体験してみて、大変なことが分かりました。なぜ仕事をするのかがわかった。 ・私が将来働くときは、充実した仕事をしたい。そして自分の仕事に自信をもつことができるようになりたい。 ・大人になって働くようになったら、人の役に立つ仕事に就きたいです。みんなの意見を聞いて、こういうのもあるんだと思いました。 ・働くことは素晴らしいことだと思った。人のために仕事をしたり、自分のために仕事をしたりすること、他にも様々ある。私は将来働くと思うけれども、働くときには、自分に合った仕事に就きたいと思う。

資料5 「職場新聞」(例)

ホテル		2年組 番
仕事内容	ベッドメイキング、ワゴン整理、 客室清掃、タオルたたみなど	<p>働くために何が大切か。何が必要か。 体力と、次に使う人のために、きれいにしたいと思う心 今の自分に必要なこと。心が掛けようと思うこと 思いやりの心・気遣い・めげない心 職場体験を終えて、一番つらかったこと たくさんの部屋を少人数でやるようになったとき、細かい所まで気を遣っていなくて注意されたこと(テレビのリモコンの置き方が少し曲がっていたり、チラシがそろっていなかったり) 一番楽しかったこと。 ホテルで働いている方に、いろいろなことを教えていただいたことや、いろいろな話をしたこと</p>
働く時気をつけること	細かい所まで気を配り、とにかくきれいにする	
働く人の喜び・楽しさ	散らかっていた部屋が、とてもきれいになったとき	
働く人のつらさ・苦勞	かなりの体力が必要となること 同じことを何回も繰り返すこと	
感想		
<p>ホテルに職場体験に行って、これから自分がホテルに泊まったときは、次に泊まる人のことを考えてきれいに使おうと思いました。また、家でももっと手伝いをしようと思いました。</p>		

(6) 評価

中学2年生にとって、意見発表は発達段階や発表の経験等の条件で難しさはある。しかし、班での話し合い活動を行うことで、個人の意見が反映され、発表者も班としての意見という形になり、恥ずかしさを感じないで発表できた。

「働くとは世間からの評価の基準となるもの」との発言に対して「すごいね」との反応があった。大人への成長の瞬間を感じる事ができた。個人発表形式では、このような発表は学級全体の場に出てこなかったと思われる。

働くことの意義についての考えが深まるとともに、自己を理解し、将来に向けた課題をみつめることができたといえる。

(7) 成果と課題

「目指す児童・生徒像」についての成果

「自分に自信をもつ児童・生徒」(A)について

ワークシート2にて「働くことの意味が少しわかった気がする。これからの自分に必要なものを見つけることができ良かったです。」とあるように、中学生としての自分に必要なことや心がけることが何であるか理解することができた。

「人や社会とのかかわりを大切にする児童・生徒」(B)について

ワークシート2の「人の役に立つ仕事に就きたい」とあるように、仕事をする事と、人のためになることをすることとのつながりを感じる事ができた。

「夢をもって生きようとする児童・生徒」(C)について

自分の特性を活かし「充実した仕事に就きたい」とワークシートにあるように、将来働くことを充実したものにしたいという夢や目標につながった。

課題

生徒の発達段階の差が大きく、働くことの意義について、全生徒が自分のこととして十分に考えを深めるまでにはいたらなかった。内容のさらなる検討が必要である。

本単元と関連させ道徳の授業において、礼儀や感謝と思いやりの心について扱ったが、さらに、関係付けて実施する必要がある。

研究の成果と今後の課題

教育課題部会では、小・中学校合同の部会であることを生かし、共通した目指す児童・生徒像を設定して研究を進めてきた。以下、研究の成果と今後の課題について述べる。

1 研究の成果

- (1) 発達段階に応じた目指す児童・生徒像と目標設定・支援の在り方が体系化できた。

中学校においては、従前より進路指導という概念が定着しており、学級活動の時間の中で行うよう学習指導要領に明記されているのに対し、小学校では十分な記載がなく、生き方を考えさせる指導について多くの課題があった。こうした中で、小・中学校の連携を踏まえた、「発達段階に応じた目指す児童・生徒像と目標設定・支援の在り方」という研究の視点を定めた。それに基づき基礎研究では、「各発達段階における生き方教育の目標」を設定し、支援の在り方を体系化することができた。これによって、各発達段階に応じた学習活動を意図的・計画的に展開させることが可能になった。

- (2) 教科等での連携事例を例示できた。

中学校では、進路指導は主に特別活動の時間に行われており、生き方を考える指導については総合的な学習の時間や他の教科等との連携を図った具体的な指導事例が少ない。事例を提示したことで、様々な教育活動をどのように繰り返し展開させればよいか明らかになった。

- (3) 次の点で、児童・生徒に変容が見られた。

教師が自信をもたせるための学習活動やまわりの人々や社会とのかかわりを大切にした学習活動を意図的・計画的に展開することで、以下のような変容が児童・生徒に見られた。

自分に自信をもち、新たな課題にも挑戦していこうとする意欲が高まった。

充実した学校生活を送ろうとする前向きな態度が育ってきた。

友だちや地域の人々とのコミュニケーションを積極的にとるようになった。

社会における自分の役割について考えるようになった。

自分の将来についてよく考えるようになった。

- (4) 将来への目標をもたせるには、身近でより具体的な目標を達成していく体験が有効であることが明らかになった。

- (5) より高い目標を設定することは、新たな自信が生まれるのに有効であった。

課題を解決したり困難な場면을克服したりすることで、意欲の高揚、課題解決の満足感につながり、新たな自信を生んでいた。

2 今後の課題

- (1) 生き方教育があらゆる教育活動の中で行われるための指導法の工夫

教科すべてにわたって実践事例を挙げることはできなかった。今後検討していくことが必要である。

- (2) 生き方教育における小・中学校の連携を踏まえた指導計画の作成

この研究成果をもとに、各小・中学校や地域の実態に応じた生き方教育の指導計画を作成していきたい。

平成15年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成15年度 第31号

平成16年1月21日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 勝田印刷株式会社